

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 **1** 回 助成期間： 平成**18**年11月1日～平成**19**年10月31日

テーマ： 里地里山を活用した渋沢小学校の環境教育

氏名： 六本木 康 所属： 秦野市立渋沢小学校

1. 課題の主旨

里地里山は、生物の多様性保存上重要な地域で、様々な人間の働きかけを通じて環境が形成・維持されてきたところである。近年、雑木林を薪や炭に利用する機会がなくなり、里地里山の喪失や質の低下が進んでいる。渋沢小学校のある秦野市でも、40年前までは、たばこ栽培が盛んで、里山の落ち葉を使ってたばこの苗床を作っていた。また、15～20年ごとに木を切り、薪や炭に利用したりしていた。しかし、たばこ栽培の衰退と高齢化による管理放棄などにより、里地里山が利用されなくなってきた。そこで、渋沢小学校の近隣の里地里山を生かした活動や体験を通して身近な自然環境に関心をもたせると共に豊かな自然とふれ合う中で、里地里山のよさや大切さに気づかせ、守っていこうとする態度を養いたいと思いこのテーマを設定した。

渋沢小には、近くに住む方から土地の提供があり、PTA男子部が中心となって作った「渋沢小ふれあいの里」がある。また、放置され荒れていた山林を地域の方が整備して、昔の二次林に戻した場所を「学習林」として提供してくださったので、それらを中心に生活科や総合学習などで活用していくこととした。

(なお、活動状況等を入れた写真等の報告書が別冊；電子メディアに作成してあります。)

2. 準備

1. 運営組織として管理運営の中に環境教育を位置づけ、その中に「ふれあいの里」「学習林」「ビオトープ」「愛鳥教育」をいれ、各担当者を中心に活動を進めることとした。
2. 自治会・地権者・PTA男子部・市役所(環境保全課)・教職員で「ふれあいの里管理運営委員会」を設け「ふれあいの里」の整備をしたり、行事について話し合ったりする会を発足させた。
3. 各教科・道徳における環境教育の年間計画を作成した。
4. 生活科や総合の年間計画の中に里地里山をいれた。

3. 指導方法

「ふれあいの里」では、低学年は、生活科の中で主に自然に親しむ活動・中学年は、理科や総合の中で主に親しむ・調べる活動、高学年は、理科や社会科・総合学習などで主に調べる・守る活動を行う。

「学習林」は少し学校から距離があるので、中学年以上が使うこととした。

4. 実践内容

1. 学校での取り組み

(1) 学校運営組織

『管理運営』の中に環境教育が位置づけられ運営組織、その中に里地里山・ふれあいの里・学習林・ピオトープ・愛鳥教育が含まれている。

(2) 各学年での取り組み

①ふれあいの里での活動

ア. 低学年・・・〈自然に親しむ活動〉

- ・生き物とのふれあい
カニ、トンボ、オタマジャクシなど
- ・草花あそび
花飾り、草笛、フジヅルのブランコ

イ. 中学年・・・〈調べる活動〉

- ・昆虫（体のつくり、様子、食べ物）
- ・こも巻き（昆虫の冬越しの様子の観察）

ウ. 高学年・・・〈守る活動〉

- ・ホタルの水路の整備・ごみ拾い・看板作り

②学習林での活動

ア. 中学年・・・〈自然に親しむ活動〉

- ・木登り ・巨大パチンコ作り
- ・秘密基地作り・落ち葉遊び など

ホタルを守る活動（看板の設置）

イ. 中学年、高学年・・・〈調べる活動〉

- ・土の中の生き物、木の太さ、木の年齢、
木肌、葉の形、におい、木が水を吸い
上げる音・木の実・冬芽さがしなど

写真

ウ. 高学年・・・〈自然を守る活動〉

- ・こも巻き・ドングリの植樹・しいたけのホダ木作り

(3) 広報活動

- ・「渋沢小里山だより」
- ・「ふれあいの里マップ」.
- ・マップ「ふれあいの里に行こう」・「学習林に行こう」
- ・野鳥だより「ネイチャーウォッチング」
- ・ふれあいの里の掲示板

ふれあいの里の整備

写真

(4) その他の環境教育への取り組み

- ①愛鳥活動（クリーン&バードウォッチング）
- ②リサイクル活動（空き缶、古新聞回収）
- ③節電の取り組み
- ④教職員の研修会

2. 地域との連携

- ・「ふれあいの里」管理運営委員会
- ・PTA男子部
ふれあいの里の整備
ホテルの観察会
- ・ボランティア
ふれあいの里、学習林の環境整備

5. 成果・効果

- ・自然とのふれあいを通して植物や生き物を大切にするようになった。
- ・昆虫の生態や体のつくりを実際に観察できた。
- ・雑木林のすばらしさや、大切さを学ぶことができた。
- ・里地里山を守ろうとする態度が見られるようになった。
- ・地域や市の行事に親子で参加するようになり、環境への関心が高まった。
- ・保護者や地域の方の協力のもとで、充実した活動ができるようになった。

6. 所感

自然とのふれあいが少ないといわれている中で、渋沢小学校の児童は、「ふれあいの里」や「学習林」という恵まれた環境の中で学習したり生活したりしている。活動を通して生き物とふれ合ったり、木登りをしたり、間伐材で物を作ったり、普段できない貴重な経験をしている。里地里山で過ごすことの楽しさを味わう事ができるということはすばらしいことだと思う。これからもこのすばらしい環境のもとで地域の方や保護者の協力を得ながら、里地里山を生かした活動をしていきたいと思う。今回、理科・環境教育助成で購入させていただいたフィールドスコープを大いに活用し、野鳥やそれを取り巻く環境にも目を向けさせていきたいと思う。

7. 今後の課題や発展性について

- ・里地里山を授業にどう取り入れていくか。
- ・「学習林」や「ふれあいの里」を観察しやすいように、道を整備したい。
- ・地域の方に、「ふれあいの里」や「学習林」のよさを知ってもらい、更に活用してもらえるように、広報活動を充実していきたい。

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

口頭発表

1. 秦野市教育研究所発表会、秦野市文化会館、2006年8月
2. 渋沢地区懇談会、渋沢公民館、2007年2月
3. 環境フォーラム「子どもたちに命の森を」(パネルディスカッション)横浜国際フォーラム、2007年2月、毎日新聞掲載

